



小松市立学校PTA連合会  
会長 清水 篤志

### “誰のためのPTA活動なのか、「すべては子どもたちのために」”

平素より、小松市立学校PTA連合会（以下市P連）に対しましてご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。会員の皆様と活動をしてきました令和4年度も残りわずかとなりました。

思い返しますと3年前コロナ禍となり、ほとんどの活動が中止や縮小となり、今まで対面で行っていた総会や理事会などが書面決議となり、市P連活動に大きな打撃を与え、今後の活動において不安を感じました。ただそのような時期に皆で集まり、今後の活動の方向性や今までの事業の見直しなどを話し合い、時代に即した活動を考えるきっかけとなりました。私たちの活動は誰のためなのか、「すべては子どもたちのため」であると再認識し全員で共有することができたと思います。

事業としては、令和2年度から始まった小松市教育委員会と市P連との意見交換会を継続し、昨年からは各単位PTAより多くのご意見を頂き集約し、それらを基に11月に意見交換会を実施し、2月の感謝の集いにて内容を発表させて頂きました。これからも市P連は各単位PTAとPTA会員の受け皿として活動することが大切であると考えます。また、十数年続いてきました「早寝早起き朝ごはん運動」を来年度は「私たちにもできるSDGs運動」に転換し、新しい目標を掲げ活動してまいります。

最後になりますが、本年度をもちまして小松市立学校PTA連合会の会長の任期を終えることとなります。本年度は『よりよい未来へ！自らが考え、行動しよう！』～次世代を担う子どもたちのために～をスローガンに掲げ、「すべては子どもたちのために」との想いで活動してまいりましたが、以前より繋いできた活動を見直し、転換することは大変な労力を必要としますが、今一度誰のためのPTA活動なのか全員で話し合い、見つめ直すことが必要なのではないでしょうか。

今後とも、各単位PTA、市P連、各小中学校、小松市教育委員会、地域の皆様と共に次世代を担う子どもたちのために連携してまいりましょう。

そして、本会の活動に対しご支援、ご協力頂いた皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今後とも本会に対して更なるご支援とご理解を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



小松市立学校PTA連合会  
顧問 道場 幹雄

### “無くすことより、まず見直すことが大切”

学校生活は人生において、かけがえのない時間だと思えます。友人との出会い、さまざまな経験が自身の未来に大きく影響を与えるのです。その大切な時が、昨今のコロナ禍により、今まで当たり前に出ていたことが出来なかつたり、人間関係の在り方をも問われる事態となっています。社会において、とても大切なのはコミュニケーション能力だと思います。人は、人との会話（話す・聴く）により信頼関係が構築されます。ただでさえスマホ等（SNS）の普及によりコミュニケーション不足が取りざたされているなか、みんながマスクを着用し、あまり表情をうかがい知ることが出来ず、会話も制限されている状況が、とても心配でなりません。一刻も早く、この事態が収束し表情豊かな子どもたちが積極的に気持ちを伝えあうことの出来る日が来ることを願うばかりです。

また近年の価値観の多様化などによりPTA活動のあり方にも変革を求められたり、PTAの存在意義自体が問われる場面も出てきていると感じています。ましてウィズコロナ、アフターコロナという状況、こんな時だからこそ「これまでずっとやってきたから」「他の学校もやってるから」ではなく、PTAの本来の目的である「子どもたちの健やかな成長のために」自分たちは何をしたらよいか、さまざまなことを今一度見直すことが大切だと思えます。保護者が負担に感じることなく『参加しやすいPTA』にして多くの大人が学び成長し、子どもたちを取り巻く環境の整備に寄与することが出来る、それがPTAの本質だと確信しています。

これからも小松市立学校PTA連合会が多くの保護者、教職員の皆様のお力になり、子どもたちの健やかな成長へとつながることを心より願っております。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



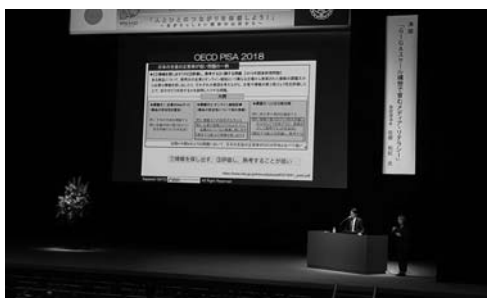
## ◆第70回日本PTA全国研究大会 <山形大会>

令和4年8月26日、27日山形県で行われた、第70回日本PTA全国研究大会に、小松市立学校PTA連合会から副会長、顧問の2名が参加してきました。日本全国から6,500名の参加でありました。

初日は文部科学省協力の特別第2分科会に参加しました。研究課題は、メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割であります。パネリストは、信州大学 佐藤准教授がメインで、文部科学省の小松宏氏とふたりによるGIGAスクール構想で育むメディア・リテラシー。iPhoneが、世に出て14年。そうなんです。今の中学生の半分は、生まれた時に

iPhoneがあるのです。そんな子どもたちに、大人が自分の経験値だけでメディアを遠のけるのが、子どもたちのためになっているのか？もちろん、ゲーム等で使うのではなく、使い方を大人も子どもも一緒に学ぶときでは…。というものでありました。

2日目の全体会は、6,500人が一堂に会するものでした。コンサートというアリーナ席で、アトラクションや行事、記念講演をみましたが、オンラインでは伝わらない、あがらっしゃい精神の山形の熱いパワーを感じるものばかりでした。



## ◆第78回日本PTA東海北陸ブロック研究大会

令和4年9月30日、10月1日名古屋市で行われた、第78回日本PTA東海北陸ブロック研究大会に、小松市立学校PTA連合会から8名参加してきました。

初日の分科会では金沢市立内川小中学校PTAの研究発表で月に1日ノーテレビ・ノーゲームデーを実施し家族団らん、会話の時間を増やしていますという発表に、子どもだけでなく保護者である我々にも欠かせないメディアを定期的に断つという取り組みに皆さん関心を寄せていました。

名古屋市当知小学校PTAの家庭で伝える「人・まち・学校」では交通量が多い地区であることから郊外指導の一環として各家庭に1本づつ旗を配り、毎月決まった日に当番制での旗当番を行い、通学路の見守りに力を入れているという発表に、小松市内でも通学路の危険箇所点検を行っていることを思い出し改めて近

隣の状況がどうなのか考える機会になりました。

是非、各家庭でノーテレビ・ノーゲームデーの取り組みと一緒に通学路を歩きながら危険箇所がないか会話をしながら歩いてみてはどうでしょうか？

2日目の全体会は、吹奏楽部の中高生にとって聖地ともされる名古屋国際会議場に6県1市から約2,500名のPTA関係者が集まりました。

記念講演「学校が、150年ぶりに変わる」をテーマに講師 苦野 一徳氏の講演でこれからの教育のあり方などについて学ぶことが多かったと思います。

その中で一番印象に残ったワードが「信頼して、任せて、待つ、支える」これからの子どもたちにはこれが不可欠だということを聞いてなんでもチャレンジできる環境を我々保護者が作っていかなければいけないと考えさせられました。



# 早寝早起き朝ごはん運動

## 大人が変われば子どもも変わる



開催日 / 令和4年11月6日(日) 場所 / 小松市民センター

未来の宝育成委員会 委員長 平島 慎也

2019年末に端を発した新型コロナウイルス感染症は、本年に至るまで消えることなく、姿かたちを変えながら今も感染者を出し続けています。現在ではウィズコロナを目指した生活様式へと変化しつつあり、子どもたちを取り巻く環境も、今までと同じというわけにはいきませんが、多くの成長の機会を取り戻しつつあります。ニューノーマルとして生活スタイルが変化を続けている今だからこそ、子どもたちの健全育成のためには「早寝早起き朝ごはん」という規則正しい生活習慣が欠かせないとの思いから、本年度も継続して本事業に取り組んでまいりました。

本年度は新たな試みとして、持続可能なより良い未来の為に世界的に推進されているSDGsに着目し、親子でSDGsについて学びながら、早寝早起き朝ごはん運動に取り組んでいただけるように「早寝早起き朝ごはん運動パンフレット」を作成、配布をさせていただきました。そして例年同様に、夏休み前に小学校低学

年を対象に「こまつっ子げんきアップカード」を配布し、夏休み期間中の生活習慣向上に役立てていただきました。同時に「わが家のSDGs標語」「わたしのSDGsレシピ」「SDGsを考えるポスター・絵画」「わたしたちにもできるSDGs作文」の募集を行い、3,181人の子どもたちから3,570点の応募をいただき、早寝早起き朝ごはん小松市民大会において、その中から特に優れた作品20点を表彰させていただきました。また、SDGsを楽しみながら学べる「Beyond SDGs人生ゲーム」を金沢工業大学様、株式会社LODU様にご協力いただき、体験、啓発を行っていただきました。これらの活動が子どもたちの健全育成へと繋がり、各ご家庭、地域での活動の一助となりましたら幸いに存じます。

最後になりますが、早寝早起き朝ごはん運動にご支援、ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

### 〈早寝早起き朝ごはん運動〉入賞者のみなさん

#### ◆『わが家のSDGs標語』部門

南部中学校	3年	大矢 真子さん
松陽中学校	1年	横山 来夢さん
芦城小学校	6年	小泉アンルさん
東陵小学校	4年	犬塚 莉菜さん
松東みどり学園	3年	高林 新太さん
串 小学校	1年	田中 結来さん

#### ◆『SDGsを考えるポスター・絵画』部門

国府中学校	2年	山本 珠生さん
国府中学校	2年	本田 ヤ工さん
月津小学校	5年	村井 心結さん
芦城小学校	4年	石田 夏葵さん
稚松小学校	3年	鈴 葵羽さん
今江小学校	1年	炭谷保乃華さん

#### ◆『わたしのSDGsレシピ』部門

芦城中学校	3年	朝井まひわさん
蓮代寺小学校	6年	新屋 咲良さん
第一小学校	6年	松下 良さん
今江小学校	3年	大畑 諒真さん
安宅小学校	2年	長田 英也さん

#### ◆『わたしたちにもできるSDGs作文』部門

南部中学校	1年	前川 優衣さん
第一小学校	6年	三輪 紗由さん
向本折小学校	3年	勝負澤舞悠さん



# 石川県PTA地区別研究指定発表会 第65回小松市PTA研究大会

開催日：令和4年11月6日（日） 場所：小松市民センター

研究大会に先立ち、PTA活動に献身的に取り組まれてこられた功労者の方々をお招きし、小松市教育委員会表彰状授与式が行われました。

休憩をはさみ、研究大会が始まりました。日末小学校育友会、御幸中学校PTA、稚松小学校育松会、どの発表も素晴らしい内容になっており、本当に皆様に聞いていただきたいものでありました。研究大会の発表は大変なご苦労だったと思います。お疲れさまでした。



## ◆小松市教育委員会表彰状



上玉利 賢様・佐々木香子様  
釣川 久子様・北村 裕樹様

## 講演会

### 『内村家流 子どものやる気の伸ばし方』 ～ こどもはみんな一生懸命 ～

各種表彰式後、内村周子氏による講演『内村家流 子どものやる気の伸ばし方 ～こどもはみんな一生懸命～』が開催されました。

内村さんは言わずと知れた体操の内村航平選手の母であり、息子さんを世界を代表する選手に育てあげた才能の伸ばし方はもちろん、私生活における子どもとの接し方（秘話盛りだくさんでした！）など、素の母親としての一面も冗談を織り交ぜながらお話いただき、楽しく拝聴させて頂きました。

私たちは笑いあり学ぶ事ありでとても有意義な時間を過ごさせて頂きましたが、それと同じくらい、すごく楽しそうにお話をされる内村さんの人柄がよくわかる和やかな講演会でした。



講師  
内村 周子氏



## 受賞された皆さん おめでとうございます！



『わが家のSDGs標語』部門  
入賞者



『わたしのSDGsレシピ』部門  
入賞者



『わたしたちにもできるSDGs作文』部門  
入賞者



『SDGsを考えるポスター・絵画』部門  
入賞者



## 日末小学校

## 『リスク回避でみんなが笑顔』～ネットトラブルを防ぐために～

## “リスク回避でみんなが笑顔”

日末小学校育友会 会長 西出健太郎

日末っ子は今日も元気にみんなが笑顔です。

2021年度・2022年度、2年間に渡って育友会のスローガンを「リスク回避でみんなが笑顔」を掲げ、活動してきました。このリスクには様々な意味があり、日本では2020年から猛威を振るった新型コロナウイルス、通学・帰宅時の交通事故そして、子どもたちにも身近になったインターネットに関するトラブルなどがあります。これらのリスクから子どもたちを守りたい。そして子どもたち自らがリスクに近づかないようにしてほしい。との思いから、スローガンを「リスク回避」としました。

研究大会では「～ネットトラブルを防ぐために～」と題して発表致しました。育友会メンバー全員で現状を把握するところから始めました。私たちも父親、母親として我が子のことは知っているつもりでしたが、ネットトラブルが身近にまで来ている。そしてその近くに子どもたちがいることを知り、驚きを隠せませんでした。活動を進めていく中で、子どもたちがインターネットは便利だけど危険な側面もあるということを理解してくれたことが一番嬉しいです。何故ならこの理解が、自らがリスクに近づかないように回避する行動に繋がるからです。

研究大会での発表、貴重な経験をさせて頂きました。また育友会役員の皆さん、校長先生をはじめ教職員方々の絶大な協力があって、ここまで活動することができました。感謝しかありません。今後も学校と地域、育友会が協力し子どもたちがより良い環境で学校生活を送れるよう活動していきます。

## 御幸中学校

## 『家庭と学校が連携し防災意識を高める取り組み』

## “研究大会をおえて”

御幸中学校PTA 会長 横山 徹也

御幸中学校PTAは『家庭と学校が連携し防災意識を高める取り組み』と題し今年度に入ってから研究大会に向けて準備を開始してきました。題目の選定から始まり慣れないメンバーでのゼロからのスタートでした。

まずは、各家庭に防災への意識をアンケートにて実施。災害があったときの避難場所、家族の集合場所、その場所までの移手段などある程度防災意識があるように思いましたが、意外にも食料の備蓄や防災バッグを準備をしていない家庭が多い結果となりました。そこで、備蓄品や非常用持ち出し品及びアンケートに対してまとめた資料を各家庭に配布し、再度アンケート調査行った結果、災害時用の準備をした家庭が増えました。

2つ目に、コドモンを使った引き渡し訓練では友人の保護者に依頼、お迎えに来れない家庭、集中している時間帯などスムーズな引き渡しを行えるよう学校と連携する必要があると思いました。

3つ目に、放課後や休日の防災については学校と相談し緊急行動マニュアル、救急箱の設置及び見直しを行いました。

今回の取り組みを終えて、個人、家庭、学校の防災意識が高まったと思いますし、防災、減災活動を今後も家庭と学校が連携し継続してもらいたいと思います。

最後に、今回の研究大会発表は時間の制限がある中での取り組みになりました。携わっていただいたメンバーの皆様ありがとうございました。

## 稚松小学校

## 『“よい姿勢”の取り組み』～背筋ぴん!! 心と体を整える～

## “研究大会の取り組み”

稚松小学校育松会 会長 嵐 達昭

稚松小学校育松会は「よい姿勢」の取り組み ～背筋ぴん!! 心と体を整える～を研究テーマとしました。

育松会では、平成28年度から「稚松っ子の姿勢」について着目をしました。取り組みを継続することで、姿勢に対する子どもと保護者の意識がどう変化していくかを研究テーマとして進めていきました。

当日は、児童が朝の会で行っている姿勢体操の実演をステージ上でを行い、研究大会に参加されている皆様にも体験していただきました。児童・保護者向けのアンケートの実施や講演会を開催することで、姿勢に対する意識が確実に向上していることから、今後も取り組みを継続していきたいと思えます。学校と家庭とが一体となつてよい姿勢の取り組みを行うことで、稚松小学校の教育目標である児童の健やかな体の育成に繋がることとなります。

また、子どもや保護者が町内や会社等のさまざまな場所で広めることにより、すべての人が健康的になることができ、SDGs目標3の「すべての人に健康と福祉を」にリンクすることとなります。さらには、地域全体がよい姿勢を意識することで、学校と家庭だけでなく地域も一体となつて稚松っ子を育てる事になり、育松会の活動目標にも繋がっていきます。

今後も育松会は、稚松っ子だけでなく、保護者や地域住民も含めた地域全体が「姿勢のよい校下(町)」を目指して取り組みを行っていきたく思います。





早寝早起き朝ごはん運動各部門 表彰式



力強い作文発表



研究大会の様子(日末小学校)



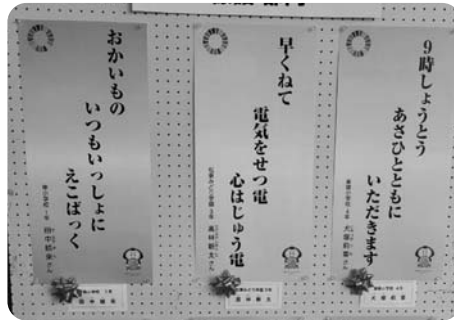
研究大会の様子(御幸中学校)



会場も一緒に姿勢体操(稚松小学校)



SDGs未来都市こまつの取組み



『標語部門』入賞作品展示



『レシピ部門』入賞作品展示



『ポスター・絵画部門』入賞作品展示



朝食からSDGsを考える



たくさんの来場者に作品を見て頂きました



『Beyond SDGs 人生ゲーム』体験



SDGsを学びながらの人生ゲーム



友達と楽しくSDGs



## 研修委員会の取り組み

研修委員会では3つの事業に取り組みました。

＜第65回小松市PTA研究大会並びに「早寝早起朝ごはん運動」小松市市民大会＞の講師選定においてはコロナ禍だからこそ一人でも多くの方に元気をお届けしたい、との思いから内村周子様へ講演依頼をいたしました。当日の講演では内村航平選手を育て上げた「内村家流子どものやる気の育て方」と題し、情熱的なお話をいただきました。

また、参加させていただいた＜第8回小松市小学生サミット＞は大変有意義な機会でした。「より良い人間関係を築くために」というテーマのもと、小松市の「いじめ」に関するデータが示され、それ

研修委員会 委員長 富山 清志

を見ながら子どもたちが自ら問題点を考察し、その場で具体的な解決策のアイデアを出していました。小中学生が積極的に発言し、その内容も大人が舌を巻くようなレベルの高いものでした。

毎年開催している＜教育委員会との懇話会＞については、本年度は8月、11月の年2回を予定しておりましたが、小松市豪雨災害の影響もあり11月のみの開催となりました。事前に各小中学校から集めたご意見を研修委員会で集約。3つに絞って意見交換をいたしました。保護者、教員、教育委員会が一体となって様々な問題に取り組んでいく為に、このような懇話会は今後も必要であると感じました。

## 輝く心の学び委員会 日帰り研修会

開催日：令和4年12月1日  
場所：石川県立図書館（金沢）  
石川ルーツ交流館（美川）  
昼食：鮪 美浜



12月1日に輝く心の学び委員会で日帰り研修会を開催させて頂きました。コロナ禍という事や、少しでも参加しやすい計画を委員の皆さんと一緒にたてました。

今回は、金沢～白山市の美川地区に訪問し石川県の近代的な建物に見て触れて石川の食文化や歴史も学ぶというプランで三ヶ所回らせて頂きました。

まず初めに訪問した場所は、最新の図書館で有名な石川県立図書館です。金沢の細い道路を進んで行くと、近代的なきれいな建物が現れました。中に入ると、天井が高くとても開放的な空間の中に360度見渡す限りの本が陳列されておりました。子ども向けのコーナーには木育遊具など五感で本を楽しむ空間が出来ており、親子で学んで遊べるコミュニケーション時間になると思いました。

次に訪問したのは旧美川町にあるお店、鮪 美浜

にて昼食を兼ねた食文化の学びです。石川県は天然とらふぐの漁獲量が日本一位です。ふぐは猛毒ですが、毒以外は捨てる所がないくらいです。あと、時期的にカニの解禁時期だったので旬のものを頂いて参りました。

最後に訪問したのが、同じ美川地区にある石川ルーツ交流館です。ここでは、美川の伝統文化の歴史も学びつつ石川県の歴史もたくさん学びました。石川県の県庁が美川だった過去の経緯を知った時、参加された方で知らない方が多かったのでびっくりされておりました。

以上のように、古い歴史から最新の建物・環境を見て触れて、食して子どもにも色んな学びをシェアできる大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

輝く心の学び委員会 委員長 米森 美来



令和4年度 小松市立学校PTA連合会 豊かな心を育む委員会

# 親子ふれあい体験

## ピザづくり体験

開催日：令和4年8月21日(日)

場所：里山健康学校 せせらぎの郷



豊かな心を育む委員会 委員長 角谷 剛志

毎回好評をいただいています親子ふれあい体験を、今年は8月21日(日曜日)せせらぎの郷にて「ピザづくり体験」を開催いたしました。

今年もコロナ禍という事もあり24組48名と人数制限を設けて案内させていただいたところ約100組の申込がありました。本来であれば全員の方にご参加いただきたかったのですが、コロナ禍にもかかわらずこれ程の申込があった事に、このイベントが皆様にご理解また期待されているものだと感じ大変嬉しく思いました。ありがとうございます。

さて今年の親子ふれあい体験ですが、本年度はSDGsを取り入れPTA活動を実施していくと云う方針のもと、「あんずの木」斎藤和美先生を講師にお招きし食材に地元で収穫された野菜や本来なら流通が困難なもの(過熟して柔らかくなったトマト、だが甘味が増す)を使用しピザづくり体験をしました。体験中はこのような食材を試食し美味しく驚いている様子や、親子の笑顔、出来上がったピザを見て感動している様子など皆さん本当に楽しそうで、今年も親子ふれあい体験を開催でき委員一同、本当に良かったと感謝しています。

残念ながら出来上がったピザはコロナ感染対策もありお持ち帰りという事になり、皆さんと試食する事ができなかったのが少し心残りになりましたが、皆さん美味しいピザは作れていましたでしょうか？ちなみに斎藤先生と委員一同が作ったものは非常に美味しかったです。

最後に、今年も大変充実した親子ふれあい体験会を開催させていただく事ができました。これもPTAに関わる皆様のご理解、ご支援あっての事と、心から感謝申し上げます。また来年度は皆さまから頂いたご意見、アンケートを活かし、より充実した体験会を開催できればと考えています。今後とも豊かな心を育む委員会に期待とご支援をよろしくお願いいたします。

今年一年ありがとうございました。



### 編集後記

今年度は、各委員会ともどのように活動・行事を行っていくか考え実行できた1年だったのではないかと思います。日々変化する環境に対して子どもたちだけではなく、我々保護者も学び、行動していかなければならないと強く感じました。

来年度はFacebookでのPTA活動報告をもっと増やし地域の方々へ今以上の周知に努めていきます。

最後に本誌制作にご協力頂きました関係各所の皆様へ、お礼申し上げます。

広報委員長 杉山 広明(板津中)

### 広報委員会

杉山 広明(板津中)・廣木 大志(苗代小)  
 飛田 直志(東陵小)・濱口 淳也(稚松小)  
 嵐 達昭(稚松小)・坪田 渉(犬丸小)  
 鈴山 和朗(松陽中)・横山 徹也(御幸中)  
 樫田 徹(南部中)  
 園下 恵子(矢田野小学校校長)